

藤本幸久 監督作品

撮影●栗原良介、中井信介

音●久保田幸雄

インタビュアー●影山あさ子

コーディネーター●加藤鈴子、福原頸志

編集●藤本幸久、栗原良介

製作・配給●森の映画社、太秦

2008年 / 日本 / カラー / ビデオ / 120分

アメリカ ばらばら crazy as usual

クレージーってか？ それが戦争さ！



心の傷とは、静かな声で、からうじて語られるものだ。

カメラがそれを受け止めるクッションになる奇跡の瞬間、

地獄の淵をのぞきこむ番が、わたしたちに回ってくる。(池田香代子・翻訳家)

■この映画は、戦争が、守るべき自国民にもたらすあらゆる負の側面をリアルにえぐり出している。戦死、PTSD、貧困、失業、ホームレス、家族の崩壊、社会からの孤立、弱者への暴力。それまで個別に語られてきたそのすべてが、ここでドッキンングしている。高遠菜穂子（イラク支援ボランティア）



God help America



■「戦争」とは、「大学に行きたい」という夢を持った十代の若者に、人を殺されることなのだ。そしてその「貧困による徴兵」は、この国の新しい未来の風景と重なるのは私だけだろうか。

雨宮凜（作家）

■イラクに行くたびに、若い米兵とすれ違う。といっても彼らは戦車や装甲車に乗り、通行人に銃を向けながら進んでいくので、遠くからカメラを向けるだけだ。そこに「勝者」はなく、あるのは「疑心暗鬼」だけ。恐怖と緊張の中で「彼らも犠牲者だな」と感じる。

西谷文和（フリージャーナリスト／イラクの子どもを救う会）



アッサラーム アライム
السلام عليكم

あなたの上に平安が訪れますように…



エリカ（海兵隊新兵）



ヘロニカ（海兵隊新兵）



ラファイエットの白い十字架



海兵隊ブートキャンプ



海兵隊ブートキャンプ

■戦争は人為。そして戦場には人がいる。各々に人生を背負った雑多な生。米軍隊の深奥に迫る本作は、ワシントン政権から連綿と続く侵略国家USAの度し難い本質を晒す。全日本人必見！ 中川敬（ミュージシャン／ソウル・フラワー・ユニオン）



カルロス（息子がイラクで戦死）



ルディ（ベトナム帰還兵）



ハーベン（イラク帰還兵）



グラウンド ゼロ



ブッシュ夫妻



海兵隊ブートキャンプ



海兵隊ブートキャンプ



善人なおもて
往生をとぐ
いわんや悪人をや



ワタダ中尉（イラク派遣を拒否）



スザン（イラク帰還兵）と母



アニータ（イラク帰還兵の母）



ジョンとダン（コンボとイラクの帰還兵）

■多くの映画でヒーローとして描かれる米兵。しかし、悲惨な戦争を経験した者、息子を失った家族の声からは、きれい事ばかりではない現実が見えてくる。病める軍事大国アメリカの真実を知るために、必見の映画です。 山内和彦（映画「選挙」主演）



デニス（海岸戦争帰還兵）



セレーナ（ホームレス支援者）



パブロ（イラク派遣を拒否）とその家族

【沖縄からアメリカへ】2005年「Marines Go Home～辺野古・梅香里・矢臼別」を完成させたドキュメンタリー作家藤本幸久は、沖縄で出会った米兵から感じた「彼らはどこから来たのか？何故兵士になったのか？そしてどこに行くのか？」という疑問を追いかけて、2006年10月から2008年4月にかけ、計7回のべ200日間のアメリカ取材・撮影を重ね、この作品を完成した。

アメリカばんざい crazy as usual [2008年/日本/カラー/ビデオ/120分]

監督・藤本幸久／製作・森の映画社／共同製作・太秦、全日本建設連輸連帯労働組合関西地区生コン支部、「アメリカー戦争する国の人びと」製作委員会／プロデューサー・小林三四郎／撮影・栗原良介、中井信介／録音・久保田幸雄／インタビュー・影山あさ子／コーディネーター・加藤鈴子、福原顕志／編集・藤本幸久、栗原良介／音楽・JUN KAWABATA／主題曲：「For The Mothers」（作詞・作曲・歌 Betsy Rose）／ナレーター・小林三四郎／翻訳・加藤鈴子、影山あさ子／タイトルデザイン・ねこまたや／スタジオ・STUDIO LAMU／ナレーション録音・皆川秀／配給・森の映画社、太秦／宣伝・岩淵温子／著作・森の映画社（©2008森の映画社）